

各 位

会社名 ジャパンシステム株式会社
 (URL: <https://www.japan-systems.co.jp>)
 代表者名 代表取締役社長 川田 朋博
 (JASDAQ・コード9758)
 問合せ先 執行役員 家高 朋之
 電 話 03-5309-0300

業績予想の公表に関するお知らせ

2019年2月14日に公表の「平成30年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において、業績予想が可能になった段階で公表する旨お知らせしておりましたが、2019年12月期通期連結業績予想について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年12月期 通期連結業績予想(2019年1月1日～2019年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
今回発表予想	百万円 9,840	百万円 500	百万円 515	百万円 330	円 銭 12.67
(ご参考) 前期実績 (2018年12月期)	9,462	371	390	222	8.55

2. 業績予想の理由

2019年12月期の通期連結業績予想につきましては、経営体制の変更に伴って各事業の一層の収益性向上や事業構造改革を加速させるべく、各事業の戦略や受注・売上高・各種費用等の再点検を進めていたことから、2019年12月期第2四半期決算短信の発表時までには公表予定としておりましたが、この度、概ね算定可能な状態となりましたので公表いたします。

当上半期は、主に自治体のお客様向けの改元対応によって増収となりましたが、下半期においても公共分野の好調が全社業績をけん引する見込みであり、通期で前期比3.9%の増収を見込んでおります。費用面では、前上半期においては、首都圏エリアのオフィス統合・リニューアルや増床、内部統制の追加的な整備等、当社が中長期に成長していくために必要な投資を実施したことにより、販売費及び一般管理費が1,332百万円と増加しておりましたが、当上半期においては同様な投資が少なかったことから販売費及び一般管理費が1,146百万円と減少しております。一方、下半期においては老朽化した関西オフィスのリニューアル等の一時費用が発生する見込みとなっております。

これらの結果、2019年12月期通期連結業績は、前期に比べて増収・増益となる見込みです。

また、2019年2月14日付け公表の「平成30年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において、2019年12月期年間配当金予想を1株当たり3円と公表しておりますが、配当予想につきましては現在のところ変更ありません。

以 上